

① 作成上の方針と重点教材の明確化。

② 一人一人を生かすための配慮と具体的な手だて。

③ 展開案の例示と、実践化への手だて。

一人一人を生かす展開案の一例を次に示す。

資料1は理科の展開の構想として作成したもので、学習形態、テーマにせまる手だてが明記してある。

(一) 一人一人を生かすための研究内容をおさえ授業の充実につとめた。

一人一人を生かす授業にするためには、生徒が主体者であるという考えに立ち、次のことを実践した。

① 学習への意欲を高める授業

(ア) 学習のねらい(目標)が生徒自身にある。

(イ) 学習する事柄に興味・関心がある。

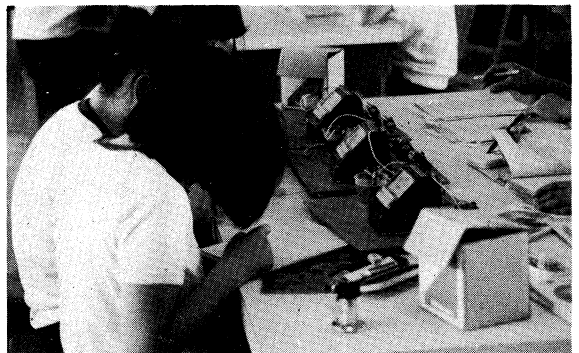
(ウ) 個々の生徒が解決の喜びを味わえる教材内容である。

学習意欲を高めるために、本校では課題解決学習を進めることに重点をおき、課題設定の仕方を工夫した。身近な教材や生徒の実態に即した課題づくりとして、社会科の例では、興味・関心を高めるための身近な教材として、「広報こおりやま」やインタビュアーなどをもとに地方自治を考えさせた。

資料2は、個々の生徒の考えや意見を大切にしながら学習課題をとらえさ

資料2 指導過程

段階	学習の内容・活動	時間	指導上の留意点(▼ 主題にかかわること)
課題把握	1. 本時の学習課題の確認 ○ 係などの発表を聞き、ノートし、確かめる。 感想をもとにして、学級全体の学習課題をつくる。	3'	▼ 一人一人の考えを生かすために小集団学習を組織する。 ○ 1つの小集団の人数は5~6名とする。 ○ 異なる考えも大事にし、話し合いでまとまらないものは、併記させる。 ○ 発表は短冊黒板を使用し、結果だけを書かせるが、経過についても説明させる。
課題追究	2. 本時の学習課題解決の手順の理解 ○ 前時の予告に補足しながら教師の明示する手順を理解する。 3. 精読の手がかりとなる学習課題の設定 (1) 感想を読み合う。(小集団)	2' 40'	○ 発表は常に自分のグループの課題と比較しながら静かに聞かせる。 ▼ 学習課題の設定にあたっては、内容の読み取りに傾き過ぎないようにしたい。



ワークシートを使って学習する生徒

せようとした国語科の指導過程の例である。

② 自分の力で主体的に学習が進められる授業。

(ア) 学習の手順がわかり、方法がわかる。

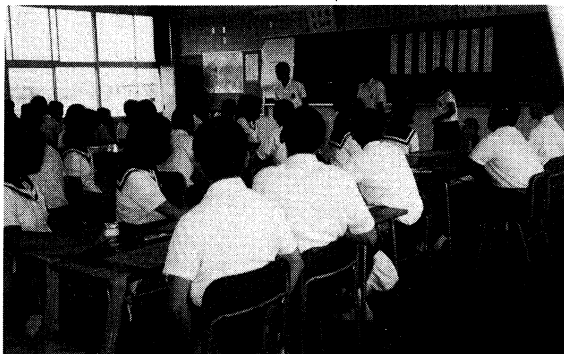
(イ) さまざまな角度から考えたり、解決したりする。

(ウ) 進んで取り組み、活動する。個別にしかも自分の力で学習が進められるようにした例が、理科で用いたワークシート(資料省略)である。

③ 個の向上が集団の向上を生み、集団の力が個を高める授業。

(ア) 学習の成果が他に認められる。

(イ) 協力による学習の有効性、効率性を知る。



自分たちで進める話し合い活動

(ウ) 自己向上、集団の向上がわかる。

研究を進めるに当たっては、小集団(グループ)活動を重視し、個から小集団、全体へと指導の流れを位置づけ、さらに自己評価、相互評価を取り入れ、自己の向上と集団の向上がわかるように配慮した。

資料3は、話し合い活動のプロセスと評価の観点である。

五、研究の成果と今後の課題

本研究は全教科、全領域にわたって行われたことにより、全職員が一致協力し、全校あげて研究に取り組みことができた。主題の内容からいえば、短